

医学・医療分野の基礎的研究を推進するとともに、その成果を医療に応用する橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)に取り組み横浜市立大学先端医学科学研究センター(金沢区福浦)。市民への医学知識の発信も積極的に推進。多岐にわたる領域を対象にした「未来の医療」の可能性について平野久センター長に聞いた。

(聞き手・宮崎 功一)

## 市大 平野センター長に聞く 先端研

—どのような領域で、具体的な成果を挙げているのか。

「センターは2006年、がん、生活習慣病の克服へ向けて市の中期計画に基づき発足し、特に『細胞』『遺伝子』『タンパク質』の研究に重点的に取り組んできた。今年3月には、悪性度の高い卵巣明細胞腺がん細胞が特異的に発現しているタンパク質を診断マーカー、創薬ターゲットとして使用する技術が特許として登録された」

「このほか、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を活用した臓器再生や、ネグレクト(育

児放棄)などの養育環境に起因したさまざまな精神疾患の新規治療薬開発など、将来の疾病克服につなげるべく、診断法、治療薬の開発、再生医療の実現、疾患予防を視野に入れた先端分野で成果を挙げている。昨年12月には、新研究棟(地上5階建て、延べ床面積約2千平方メートル)が医学部福浦キャンパス(金沢区福浦)に完成し、研究の進展を加速させている」

—医学知識還元を目的に08年度から主催している「市民講座」が29回を数えた。「先端医学科学研究を分かり

やすく紹介する内容が好評で、2千人以上の市民が聴講した。テーマは、『感染ウイルスの増殖を防げ』『子宮頸がんの撲滅に向けて』『たんぱく質と病気』など多岐にわたる。医学、医療分野で活躍する第一線の研究者や臨床医が、がんや生活習慣病、アレルギーなどを克服するため、どう闘っているかが手に取るように分かる。夢のある先端

# 未来の医療へ橋渡し

医学科学研究の実現に向かって研究者が努力する姿と、夢がどこまで実現に近づいたかを紹介している」

同センターの市民講座のエッセンスを紹介するシリーズ「未来医療への懸け橋」市大先端研を今月11日から掲載する(月2回)。著名な研究者が、講座内容を新しい情報を加えて発信する。



研究成果などについて語る平野センター長

横浜市大先端医学科学研究センター